

様式3 【物・文化財・風景など実体のあるもの】

ふくしまの森林文化調査カード

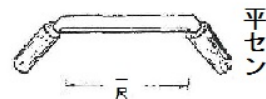
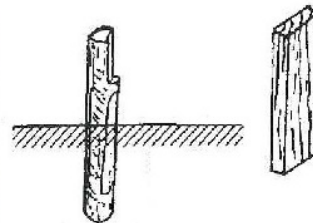
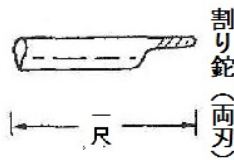
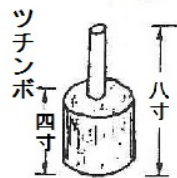
県 HP公開（可・否）

区分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野（ふりがな）	(分野) 木工	(ふりがな) もっこう	
地域独特の呼び方			
タイトル	コバ割り		
伝承地域	南会津地方		
由来（年代）	<p>(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで(いつまで)伝えられてきたか)</p> <p>土蔵や母屋の下屋(ひさし)の屋根は、クリやスギの薄い割り板で葺いた。その割り板をコバといい、「木羽」、「木端」、「小羽」とも書いた。昭和20年代後半ごろまで、コバ葺きの仕事があった。</p>		
内容	<p>(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども)</p> <p>コバの材料は、スギ、クリ、ナラ等であった。 スギの耐用年数は15～20年、クリの耐用年数は25～30年であった。原木をコバの長さ八寸に玉切りし、クリは厚コバに割り、スギは厚コバと薄コバ両方に割った。厚コバは一寸の厚さの板を四枚に割り、薄コバは一寸の厚さを十六枚に割った。 原木の大割り、小割りは両刃の「割り鉋」を用い、「ツチンゴ」で叩いて行い、仕上げはセンで削って厚さを揃えた 幅は決まりがなく、原木の太さにあわせて仕上げた。</p>		
大きさ・材質	(大きさ：緑の文化財、巨木、建造物などスケールが情報として有用なもの。	(材質)	
見頃	(緑の文化財、巨木など特定の時期に見頃が訪れるもの。)		
交通アクセス			
文化財等の指定状況			
問い合わせ先	出典『館岩村史』	南会津町教育委員会	

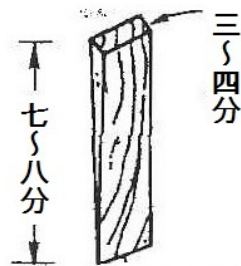
キーワード



↓



コバ板



厚さと長さは基準がある。

【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。
活動の様子が分かる資料等があればコピーをご恵与ください。